

# NIE と ICT の効果的活用について

仲善・多度津中 中山 佳 昭

## 1 授業実践

### (1) 題材名

俳句の可能性・俳句を味わう

### (2) 題材について

- ① 本題材は、学習指導要領第3学年2内容〔知識及び技能〕(1)イ、ウ〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)ウに該当する。俳人の宇多喜代子による解説文「俳句の可能性」と「俳句を味わう」九句、および「俳句を作って楽しもう」によって構成されている。俳句は、十七音という限られた音数の中に季語や切れ字などを効果的に用いるものであり、書く側としては作者の思うままに感動を表現し、読む側として自由な解釈で鑑賞できる、気軽に楽しめる文芸である。無季自由律俳句にも言及されていることから、基本となる俳句の形式を理解しつつ、俳句の自由度と楽しみ方が無限に広がっていることを気付かせることにより、近・現代俳句のおおよそを把握し、日本の伝統的な言語文化について関心を高めることにつながると考える。

そこで、本題材では、付けたい力を以下の3点とする。

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる力。
- (2) 言葉が持つ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に様々な観点から関わり、思いや考えを伝え合おうとする力。
- (3) 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する力。

様々な作品を読み味わい、自由なテーマで俳句を創作する学習を通して、学習指導

要領の目標である「社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることにつながる」と考える。

- ② 本学級 33 名の生徒は、明るい雰囲気で見守りに授業に取り組んでいることが多い。

日々の授業では、積極的に発表する生徒がいる一方、一部の生徒がすぐに発言するため、おとなしい生徒の発表が少ない傾向がある。国語に対して苦手意識をもっている生徒が多く、特に書くことに関して苦手だと感じている生徒は 80% (30 名にアンケート実施、3 名欠席) と、かなりの割合で苦手意識があることが分かった。採点支援システム「百問繚乱」を用いて1学期期末テストの結果分析を行ったところ、〔知識・技能〕の正答率は 61.9%で、〔思考力・判断力・表現力等〕の正答率は 69.9%であった。学年平均をどちらも下回っている。また、記述式の問題において無答率がかなり多いことが懸念される(大問4(5)。無答率 32.1% 学年無答率 15.4%)。

そこで、言葉を大切に作られた俳句を読み味わうとともに、自分の実感をもとに俳句の創作をすることを通して、書くことの楽しさに気付かせたり、様々な語彙の獲得を目指したりする必要があると考える。

- ③ この題材を指導するにあたって次の点に留意したい。

- ・ 授業支援クラウド「ロイロノート・スクール」を有効に活用し、視覚的に分かりやすい資料を作成することで、言語活動の理解を進める。
- ・ 苦手意識をもっている生徒や、話し合いの際に中心となって進められる生徒をそれぞれの班に配置することで、スムーズに活動が進むようにする。
- ・ 新聞記事を読み、語彙を増やすとともに、興味のある内容を必要に応じて選択し、創作活動に活用させる。

(3) 学習指導計画

- ・ 本文を読み、俳句の基本的な約束事を知る。 . . . . . 1時間
- ・ 本文中にある五句と「俳句を味わう」九句の読みを深める。 . . . . 2時間
- ・ 季語を大切にしながら俳句を創作する。 . . . . . 1時間
- ・ クロヌリハイクを創作し、鑑賞し交流する。 . . . . . 1時間 (本時)

(4) 本時の学習指導

- ① 目標 新聞記事から季語を見つけ出し、有効に活用して俳句を創作することができる。
- ② 学習指導過程

	学習活動	生徒の予想される反応	指導上の留意点
つかむ	1 前時の復習、学習課題の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クロヌリ懐かしい！</li> <li>・ NIE の活動頑張ろう！</li> <li>・ 良い記事が見つかるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俳句の基本的な決まりと、クロヌリハイクの作り方を簡単に確認する。</li> </ul>
<b>学習課題 クロヌリハイクを創作し、みんなで鑑賞しよう！</b>			
つかうくべらつなぐかえる	2 俳句を創作する。 (1) 季語となる言葉を薄く丸で囲む。 (2) 俳句に使えるような言葉にできるだけ印をつける。 (3) 言葉を選び、五・七・五に整える。縦書きの記事の場合、原則上→下、右→左に言葉を選ぶ。 (4) 文字がつぶれないように丁寧に縁取りをする。 (5) 周りを塗りつぶして完成。塗り方は自由。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな俳句を作ろうかな。</li> <li>・ 季語がたくさんあるといいな。</li> <li>・ 難しいけれど頑張るぞ！</li> <li>・ 字余りになっているけれど、どうにか十七音に収める方法はないかな。</li> <li>・ 季語を最初に置こうか、最後に置こうか…。</li> <li>・ 文字が消えないように丁寧に縁取っていこう。</li> <li>・ 塗り方にもこだわりたい！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている生徒がいたら、作り方を一緒におさらいする。(五・七や七・五を作ってから季語を付ける等。)</li> <li>・ タブレットを用いて季語を調べても良いことを伝える。(「きごさい歳時記」「歳時記インデックス」)</li> <li>・ 下から上など戻って読ませたい場合などに、読み方の導線が分かるように工夫して塗る方法があることも伝える。</li> </ul>
<b>振り返り 自分の思いが効果的に伝わるように言葉を選んだり語順を変えたりして、工夫した俳句を創作することができた。</b>			
	4 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語順が違うだけで印象が変わった！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉による印象の変化を理解させ、これからの言語活動に生かす。</li> </ul>

2 成果と課題

新聞の言葉の中から俳句を自由に創作するため、主体的に楽しく活動ができていた。一方、言葉の多さに手が止まってしまう生徒もいたため、記事やページを限定する工夫が必要である。